中国の提出する資料のユネスコ記憶遺産登録阻止に向け、釈党首がパリのユネスコ本部訪問

去る５月 26 日、釈量子党首がフランス・パリのユネスコ本部を訪問し、中国による世界記憶遺産への登録申請について、抗議を申し入れました。幸福実現党は４月初めに、中国の同登録申請に対する反対署名（19 万 2036 筆）を集めて内閣府に提出。同月８日には、中国が登録申請している「南京大虐殺」資料に対する反論文書をユネスコ本部に提出していました。それに引き続き、今回、「従軍慰安婦」資料に対しても反論文書を作成し、ユネスコ記憶遺産事務局に申し入れを行いました。

提出した反論文書では、①中国が資料の解釈を歪曲して申請している、②中国がユネスコの規定に反して、申請資料の公開を拒否している、③中国が一部資料を所有者に無断で申請しているなどの問題点を指摘しています。

今回申し入れた反論文書には、渡部昇一氏や長谷川慶太郎氏等、国内外の有識者 44 名（５月 20 日現在）の賛同者が集まりました。登録の可否は、９月末に開かれる最終審議の後に決定される予定です。幸福実現党は今後も、ユネスコの世界記憶遺産の審査担当者に公正な判断を求めてまいります。

ユネスコ本部・世界記憶遺産担当のイスクラ・パネプスカ氏（右）と

パリ・ユネスコ本部　EQRoy / Shutterstock.com

大川裕太党活動推進参謀による２冊目の党政策集が発刊!

大川裕太 著
『幸福実現党
テーマ別政策集1
「宗教立国」』

『幸福実現党
テーマ別政策集2「減税」』

各 1,404 円（税込）　発行：幸福実現党

この度、大川裕太党活動推進参謀による幸福実現党の「テーマ別政策集」がシリーズにて発刊されます。

本シリーズでは、大川隆法幸福実現党創立者（兼）総裁の政策提言が、テーマごとにまとめられています。２冊目となる「宗教立国」編では、「神仏の心を心として生きる」という宗教立国の精神、「宗教」と「政治」の関係が、分かりやすく解説されています。幸福実現党が提言する数多くの政策のみならず、それらの政策の奥にある根本思想を学ぶことができる、党員必携の政策集です。

６月３日には、著者による『宗教立国』編の講義が行われました（写真上）。幸福実現党の存在意義や他党との違い、人権の根拠である神仏の子としての尊厳など、宗教立国をめぐって多岐にわたるテーマが論じられた同講義は、幸福の科学の全国の精舎・支部・拠点・布教所などでご覧いただけます。

豊かな街づくりに向け新人議員会議を開催

５月２日、統一地方選の当選者を迎え、党本部にて新人議員会議を行いました。会議では、釈党首、加藤幹事長が議員当選を祝福し、今後の地方議会における活動方針を説明。その後、地方が過疎化や高齢化などの問題に直面するなか、高齢者にやさしい街づくりや地域社会の再生方策について積極的に議論しました。

東大五月祭で釈党首が熱弁

５月 17 日、東大五月祭にて「世界を変えた日本の歴史」と題し、約 130 人を前に講演しました。五月祭での講演は、今回で３回目です。

釈党首は、日露戦争など戦前の日本の存在がいかにアジアや中東諸国に大きな影響を与えたかを力説。また、若者たちに向け、「日本の歴史を学び感動の涙を流すことで、自虐史観のウロコを落としてほしい」と熱く語りました。

有楽町で憲法記念日街宣

68回目の憲法記念日となった５月３日、加藤幹事長が有楽町駅イトシア前で街頭演説を行い、「日本国憲法は、GHQ が一週間あまりで原案を作り、我が国に押し付けてきたものです。戦後 70 年、日本人自らの手で新憲法を創り直すよう動き出すとともに、『戦力の不保持』をうたう憲法９条の取り急ぎの改正は国家の存亡を賭けた急務であると考えます」と訴えました。

「幸福実現革命基金」のご案内

幸福実現党では、随時、党員を募集しています。ぜひご家族、ご友人をご紹介ください。また、次期国政選挙勝利に向け、「幸福実現革命基金」を開設しております。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

入党申込書、寄附申込書は党HPからダウンロードできます

幸福実現党　検索

死なないでください。

人生に疲れた方へ。
死にたい、自殺したいと思っている方へ。
周りに自殺を考えている方がいたり、大切な方を自殺で失ってしまった方へ。
このサイトで、あなたの悩みを解決する処方せんを見つけてください。
人生はどこからでもやり直せます。

イラスト/さとうふみや

自殺防止サイト
あなたに贈る真理の言葉
WORDS OF TRUTH FOR YOU

心を癒してくれる、このサイトだけのオリジナル・コンテンツ
漫画家・さとうふみやの書き下ろしイラスト 他

withyou-hs.net/

幸福の科学

幸福の科学では、２００３年から"自殺を減らそうキャンペーン"に取り組んでいます。

発行所　幸福実現党本部　〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-8　電話 03-6441-0754 © 幸福実現党本部 2015年 平成27年6月7日

幸福実現NEWS

THE HAPPINESS REALIZATION NEWS
［党員限定版］第69号

いざ、新しい国造りへ

5月26日、安保関連法案が審議入りした衆院本会議での安倍首相
写真：Natsuki Sakai/ アフロ

自虐史観を払拭し、今こそ憲法９条改正を

集団的自衛権の行使容認や自衛隊による米軍への後方支援の拡充など、戦後日本の安全保障政策の大転換となる安保関連法案（平和安全法制）の国会審議が始まりました。今国会での成立を目指す政府・与党に対し、野党は徹底抗戦の構えです。

◇◇◇◇◇

しかし、北朝鮮が核ミサイル保有を急ぎ、中国が強大な軍事力を背景に強引な海洋進出を繰り広げるなど、日本を取り巻く安全保障環境が悪化するなか、抑止力強化に向けて法案成立を急ぐべきなのは言うまでもありません。と同時に、こうした日本の安保政策の不備を埋めるための“弥縫策”にいつまでも頼るのではなく、国防体制の抜本的強化に向けて憲法９条の改正に踏み切るべきであるというのが、わが党の考えです。

「戦後」を終わらせるために

戦後日本の平和と繁栄をして、「平和憲法の恩恵」とみる向きもありますが、日本の平和が維持されてきたのは、自衛隊の存在と日米同盟による抑止力によるものにほかなりません。現在、沖縄では米軍普天間基地の移設問題をめぐり反対運動が起きていますが、日本の安全確保には、辺野古移設を進め、在日米軍による抑止力を維持することが欠かせません。併せて、米国の退潮も見据え、憲法９条改正はじめ「自分の国は自分で守る」ための体制整備に取り組むべきです。

「９条を守りさえすれば、平和は保たれる」という“９条信仰”は根強く、「幸福実現党は宗教政党なのに、なぜ同条改正を主張するのか」と指摘されることもありますが、国家国民を守るとともに、他国による悪を押し止めるための国防強化は、宗教的にも正義にかなうと考えます。

そもそも現行憲法は、戦後、GHQ に押し付けられたものにほかなりません。そろそろ日本人の手で憲法を創り直し、「戦後」を終わらせるべきなのではないでしょうか。

改憲に避けられぬ自虐史観の払拭

安倍晋三首相は４月末の米議会での演説で、「日本はいま、クォンタム・リープ（量子的飛躍）のさなかにある」として、いかなる分野においても改革を進める決意を語りましたが、首相の悲願であり、最大の構造改革である憲法改正、特にその本丸たる９条改正を断行するには、自虐史観の見直しを避けては通れません。

戦後 70 年の本年、歴史認識をめぐり近隣国が反日攻勢を強めていますが、対日非難に正当性を与えているのが、「日本は侵略行為を繰り広げた犯罪国家である」とする東京裁判史観です。しかし、これは日本弱体化を目論む戦勝国側が流布した歴史観にすぎません。先の大戦で日本が戦ったことが、欧米列強の植民地支配に終止符を打ち、白人優位の人種差別政策を打ち砕いた事実を見逃してはなりません。

安保関連法案が審議入りした5月26日、国会議事堂前などで反対派によるデモが繰り広げられた
写真：Natsuki Sakai/ アフロ

幸福実現党は一貫して、先の大戦への贖罪意識から日本政府が発表した河野・村山両談話の撤回を急ぐべきと訴えています。両談話は、「日本が悪かった」という自虐史観を日本人に植え込んだばかりか、国際社会に対し、「日本は謝罪する以上、残虐なことをしたに違いない」との印象を与えました。おかげで、国防強化が急務であるにもかかわらず、日本はことあるごとに軍国主義化を危惧されて、「自分の国は自分で守る」体制構築も満足にできない状態です。

新しい国造りへ

日本の誇りを取り戻し、国の守りを強くすることなくして、日本の未来は開けません。

安倍首相には、誤った歴史観に基づく河野・村山両談話を白紙撤回するとともに、今夏発出する新談話において、正しい歴史観に立脚した日本の姿勢を内外に堂々と示すよう求めるものです。

歴史認識をめぐる日本の名誉を回復するとともに、世界の平和と繁栄に貢献できる国家へと日本を飛躍させるべく、幸福実現党は新しい国造りに邁進してまいります。

５月９日、党本部で開催された、東京都・山梨県本部の立党６周年大会（写真左）。釈党首は憲法９条改正や自虐史観の払拭などに向け、幸福実現党躍進の必要性を訴えた（写真上）。

〈幸福実現ニュース〉は幸福実現党の機関紙です。1、2面はネットからダウンロードもできます（無料）。
※幸福実現党の党員の方には、全4面のペーパー版が郵送されます（党員登録が必要です）。
PDF版ダウンロード(無料)はこちらから http://info.hr-party.jp/newspaper/